

# MARUSEN

SPORTS & CULTURE

NO. 4

平成19年度



# CONTENTS

ごあいさつ	1
財団の概要	2
役員・評議員名簿	3
平成19年度事業報告	4
第1章 助成事業関係	4
1 スポーツ活動に対する助成	4
2 文化活動に対する助成	5
第2章 表彰事業関係	6
1 マルセン大賞	6
2 マルセンスポーツ賞	6
文化賞	7
第3章 イベントの開催	8
1 スポーツ関係	8
2 文化関係	8
第4章 スポーツ・文化に対する広報・啓発事業	9
1 ホームページの管理	9
2 機関誌の発刊	9
3 お知らせ 第25回 国民文化祭・おかやま2010	10
第5章 ホットコーナー	11
・山陽女子ロードレース大会	11
・山口 松太さん（漆芸家）	13
第6章 贈呈式	15
第7章 受賞者からのひとこと	16
1 マルセン大賞	16
2 マルセンスポーツ賞	17
3 マルセン文化賞	23
資 料	
1 事業の記録	27
2 平成18年度収支決算書	30

## ごあいさつ

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団は、お陰さまをもちまして4年目を迎えることが出来ました。このことは一重に皆さま方の温かいお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。

さて、世の中はめまぐるしく進展を続けておりますが、平成19年は、食の安全に関わる賞味期限の改ざん・偽装事件や年金問題、子供を巻き込んでの痛ましい事件が続きまして、誠に悲しいことでございます。これらのこととは公の責任は勿論、地域や家庭の問題として取り上げ重大な関心をもっているところでございます。このような中、昨年の11月には、岡山県内で全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」が開催されまして、元気な岡山を全国へ情報発信が行われ、当財団でも、活動の一端をご披露させていただきました。

財団の事業によって、県民の皆さまが少しでも明るく元気にとスポーツ・文化活動でお役に立てますよう活動助成事業や表彰事業・イベント等の開催をとおして微力ながらもお手伝いをさせていただいているところでございます。

このたび、活動の記録として、「マルセン」第4号の発刊の運びとなりました。ご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。どうか、ご高覧のうえご指摘を賜れば幸いに存じます。今後とも地域の皆さまのスポーツ・文化活動に貢献できますよう更に努力を重ねてまいりますので、引き続き皆さまのご指導及びご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年3月

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団  
理事長 千原 多美子

# 財団法人の概要

## I 概 要

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団は、平成16年2月20日付けで岡山県教育委員会の許可を得て設立されました。

当財団は、寄附行為第3条で、その目的を「岡山県のスポーツ・文化の振興発展を図るとともに県民が健康で豊かな心を持って生活できる環境・社会の実現」と規程し、その目的達成のため次の5項目

- 1 スポーツ・文化活動に対する助成
- 2 スポーツ・文化活動に対する表彰
- 3 スポーツ・文化に関するイベントの開催
- 4 スポーツ・文化に関する広報啓発育成事業
- 5 その他目的を達成するために必要な事業

を定め活動を開始しております。

## II 沿 革

平成16年 2月27日	財団設立。岡山市富町二丁目4番4号に事務所を設置
平成16年 3月26日	初代理事長に千原多美子就任
平成16年12月14日	第1回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成16年12月23日	第1回スポーツイベント 第23回山陽女子ロードレース大会
平成17年 2月26日	晴れの国おかやま国体へ助成
平成17年 3月11日	第1回文化イベント 岡山フィルハーモニック管弦楽団第26回定期演奏会チケットプレゼントの実施
平成17年 7月14日	晴れの国おかやま国体への助成（2回目）
平成17年 8月 3日	第2回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成18年 1月13日	財団のロゴマークの選考・決定
平成18年 7月21日	第3回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成18年 8月 4日	コミュニティライブラリーの設置（岡山市駅前・旧岡山会館1階） 晴れの国おかやま国体写真展 「あの感動をもう一度! 表彰者紹介コーナー・映像コーナーの設置
平成18年11月 3日	川島 基ピアノリサイタル
平成19年 7月24日	第4回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成19年11月 2日	第19回全国生涯学習フェスティバル【まなびピア岡山2007】「生涯学習見本市」に出展
平成20年 3月 8日	マルセン少年サッカー教室の開催

# 役員・評議員名簿

平成20年1月31日付

## 役員名簿

役職名	氏名	会社名
理事長	千原多美子	(株)成通 取締役
常務理事	千原 秀則	(株)センインターナショナル 代表取締役社長
理事	加計孝太郎	学校法人 加計学園 理事長
//	川崎 誠治	学校法人 川崎学園 副理事長
//	佐々木勝美	(株)山陽新聞社 代表取締役会長
//	高谷 茂男	岡山市長
//	古市 健三	倉敷市長
//	吉岡 洋介	(財)ワコースポーツ・文化振興財団 理事長
//	千原 行喜	(株)成通 代表取締役社長
監事	衣笠 和孜	岡山療護センター センター長
//	信朝 寛	(株)トマト銀行 非常勤監査役

五十音順 敬称略

## 評議員名簿

役職名	氏名	会社名
評議員	馬越 繢	馬越績税理士事務所 所長
//	北尾 好昭	(株)瀬戸内海放送 取締役執行役員岡山本社代表
//	高野 葵	岡山県ケーブルテレビ振興協議会会長
//	砂田 治男	テレビせとうち(株) 代表取締役会長
//	瀧口 美雄	西日本放送株式会社 岡山本社総局 総括
//	平松 捷	平松弁護士事務所 (元日本弁護士連合会副会長)
//	藤原 隆昭	山陽放送(株) 代表取締役社長
//	松岡 俊郎	岡山エフエム放送(株) 代表取締役社長
//	宮内 正喜	岡山放送(株) 代表取締役社長
//	藤田 土義	(有)ミスター・メンテナンス 代表取締役社長

五十音順 敬称略

# 平成19年度 事業報告

## 第1章 助成事業関係

### 1 スポーツ活動に対する助成 (応募総数/31件 採用件数/10件)

番号	団体名等	活動名	活動目的
1	岡山県レスリング協会	それ輝け!フェスティバルin倉敷大会兼第9回中四国少年レスリング選手権大会	青少年の健全育成
2	岡山東商業高校 陸上競技部	岡山東商業高校 陸上競技部活動	陸上競技の楽しさを味わうとともに、競技力の向上を目指す。青少年の健全育成に努める。
3	小野道場	小野道場(柔道)	柔道を学ぼうとする児童・生徒を対象に各自の技能、体力に応じ柔道を楽しく経験してもらい、柔道の基礎作り・仲間作りを目的としている。正しい柔道の理論と技能を習得させるとともに、心身ともに健全な人格の形成を図り、もって柔道の普及振興に寄与する。
4	倉敷市子ども会 連合会	第2回倉敷市子ども会 連合会球技大会	子ども会の活動の発表の場とし、市内4地区の相互理解と交流を促進し、球技活動の原点を見出す契機とする。
5	三球会	障害者の卓球クラブ	障害者が自らの意思でスポーツを楽しみ、自身を高める。会員の意思、活動に賛同できる仲間を募る。メンバーを全国大会に送る。
6	せとうちオープン ウォータースイミング 大会実行委員会	せとうちオープン ウォータースイミング (OWS)大会	岡山県におけるOWS競技の普及及び発展。瀬戸内海の環境保全への認識を高める。
7	津山ターゲット バードゴルフクラブ	ターゲットバード ゴルフ普及活動	健康づくり及び技術の向上、愛好者の拡大
8	パヴァーヌ フットボールクラブ	パヴァーヌ フットボールクラブ	スポーツを通してのコミュニケーション、技術・精神・体力の向上。他チームとの交流によるマナーの向上。同年代、異年代の人間関係づくり。
9	美咲町立旭小学校・30 人31脚実行委員会	美咲町立旭小学校・30 人31脚実行委員会	ひとつの目標に向かってチャレンジし、心豊かでたくましく生き抜く子どもの育成を目的とする。
10	柵原東スポーツ少年団	柵原東スポーツ少年団	様々なスポーツを通じ、心身ともに健全な児童の育成を図る。

## 2 文化活動に対する助成 (応募総数 /53件 採用件数/11件)

番号	団体名等	活動名	活動目的
1	Mプロジェクト協議会	地域再生活動 “新しい文化の創造”	愛着のある住み続けたい街づくりを目指す。
2	岡山県立博物館友の会	岡山・香川交流展 ボランティアガイド	瀬戸大橋で結ばれる岡山・香川両県はさまざまな交流が求められており、文化面での交流として、岡山・香川の県立博物館が連携し、3年計画で、協働の展覧会が実施される。それにあわせ展覧会のボランティアガイドを実施し、両県の交流の促進を図る。
3	倉敷市文化連盟	第9回倉敷新鋭作家選抜美術展	倉敷市に縁の新進気鋭の芸術家を紹介するための作品展。毎年開催しており8年の歴史を持つ。ジャンルは多岐にわたるが、常に2人以上の複数の作家の合同展としている。
4	倉敷市立短大子どもの劇場	幼児向けの演劇公演活動	演劇公演を通して、子どもたちの健全な成長を援助する。
5	劇団花みずき	劇団花みずき	演劇、ジャズダンス教室 さまざまな舞台を経験する中で団員一人一人が自分の役割と責任を認識し皆が協力し合って作品を作り上げていく楽しさを味わい、公演の達成感をわかちあう。
6	子ども糸あやつり人形劇グループ「星の子きらり」	糸あやつり人形劇の公演	糸あやつり人形劇の公演活動を通して豊かな心と夢を子どもたちに伝える。
7	財団法人岡山シンフォニーホール	岡山フィルハーモニック管弦楽団岡山市小・中学校音楽鑑賞教室	日頃生のオーケストラ演奏に接する機会の少ない小・中学生を岡山シンフォニーホールに招き、フル編成オーケストラを鑑賞させることにより、一層の情操の涵養に寄与する。
8	津山第九をうたう会	第25回津山第九演奏会	第九の演奏会を通じて、公演に参加した地域住民の音楽愛好家同士の交流参加者全員の技術や芸術性の向上を図る。このようにして達成した演奏会を多くの聴衆に疲労することにより、出演者・聴衆双方の音楽芸術に対する意識を高め、地域音楽文化の振興に寄与する。
9	デジタル岡山グランプリ実行委員会	デジタル岡山グランプリ	映像コンテスト「デジタル岡山グランプリ」を実施することによって、岡山における草の根レベルの映像文化向上と、地域住民が制作した映像作品の発表の場を提供する。
10	東備地域音楽を楽しむ会	第4回「サエスタコンサート」松本和将と倉敷管弦楽団	東備地域の音楽文化向上
11	桃太郎少年合唱団	桃太郎少年合唱団第45回記念定期演奏会	本団は「青少年の健全育成と地域音楽文化向上に資する」目的で昭和37年に設立されて以来県内外での演奏等活発な活動を続け今年で46年目となる。

## 第2章 表彰事業関係

### 1 マルセン大賞

平成18年度スポーツ・文化活動において国際大会・全国大会等で特に優秀な成績・業績を収めた個人または団体を表彰。

#### 【マルセン文化大賞】 (副賞／100万円)

##### ●山口 松太 [漆芸]

漆芸家

氏の漆芸創作活動はその卓越した技量によって早くから各種展覧会で数々の入賞を果たす。

平成11年・日本工芸会総裁賞受賞。18年には日本工芸会理事に就任。

琉球漆器特有の装飾法である「堆錦」を制作不可能といわれていた本土の環境下で試み、備中漆の特性に注目した新たな技術開発によって堆錦餅の製作に成功。この堆錦加飾法は、「油巣堆錦（ゆしょうついきん）」と命名されている。

※ マルセンスポーツ大賞の該当者なし

### 2 マルセン賞

平成18年度スポーツ・文化活動において優秀な成績あるいはスポーツ・文化の振興に貢献した個人または団体を表彰。

#### 【マルセンスポーツ賞】 (副賞／30万円)

##### ●麻生 薫 [ハンドボール競技の指導]

岡山県立倉敷天城中学校教諭

平成14年度に下津井中学校に新採用教諭として赴任し、同時にハンドボール部顧問に就任。

平成17年度 第1回春の全国中学校ハンドボール大会 優勝

平成18年度 全国中学校ハンドボール大会 準優勝

岡山県選抜チームのコーチとして第15回JOCジュニアオリンピックハンドボール大会優勝

##### ●岡山県作陽高等学校 サッカーチーム [サッカー競技]

第60回・第80回全国高校サッカー選手権大会で、ベスト8に入賞。

第85回全国高校サッカー選手権大会（平成18年度）で準優勝を果たす。

##### ●岡山湯郷Belle [サッカー競技]

旧美作町と岡山県が地域振興とスポーツの振興を図ることを目的として、民間企業や地域住民の協力を得て設立した女子サッカークラブチーム

平成19年 第28回全日本サッカー選手権大会で準優勝を果たす。

##### ●長田 京大 [体操・新体操競技の指導]

岡山県立井原高等学校教諭

新体操部監督として、「全国制覇」を目標に日々部活動の指導を行っている。また、平成12年に井原ジュニア新体操クラブを設立、小・中学生を対象に一貫指導し、地域に根ざした活動をしている。

平成18年度全国総合体育大会 男子団体 優勝

第59回全日本選手権大会（高校の部） 優勝

##### ●牧野 吉伸 [ウエイトリフティング競技の指導]

岡山県立笠岡工業高等学校教諭

倉敷商業高等学校ウエイトリフティング部監督として「全国制覇」を目標に日々部活動の指導を行っているが、この競技の特性上、初心者からの指導となるが常時全国大会で好成績を挙げ第8回全国高等学校女子ウエイトリフティング競技選手権大会、学校対抗選手権の部で優勝。

個人優勝者排出。第18回女子重量挙げ世界選手権大会でも10位入賞する選手を育てる等女子選手育成には手腕を発揮するなど普及・発展に貢献している。

---

**【マルセン文化賞】** (副賞／30万円)

●**多胡 昭彦 [天文家]**

美咲町立さつき天文台長

40年以上も彗星と新星の搜索に活躍し昭和43年5月のタゴ・ホンダ・ヤマモト彗星発見、その後も数々の彗星・新星を発見。平成18年10月には、アマチュア天文家としては、世界初となる「マイクロレンズ現象」観測に成功した。

●**田丸 稔 [美術 彫刻]**

倉敷芸術科学大学専任講師

岡山大学大学院在学中から日彫展奨励賞を受賞するなど活躍をしていたが、平成18年11月2日東京都美術館で開催された「第38回日展」3科彫刻部門で、「赤銅色」が特選受賞し、今後ますますの活躍が期待される。

●**宮尾 昌宏 [美術 陶芸]**

備前焼作家

平成3年から備前で修行を始め、平成17年に日本伝統工芸展に初入選を果たした。

平成18年第53回日本伝統工芸展に出品作品「備前鉢」が日本工芸会会長賞を受賞。過去を含めてこのような優秀賞を受賞した備前焼作家はいない。将来を嘱望される。

## 第3章 イベントの開催（協賛）

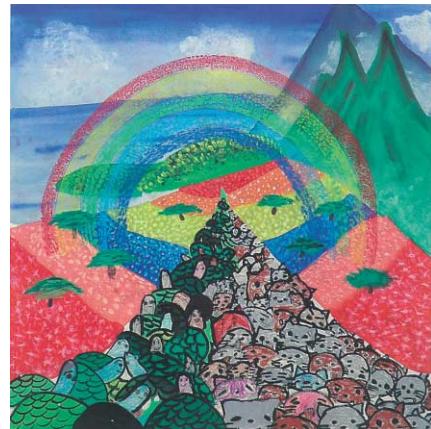
### 1 スポーツ

- 第30回岡山県少年剣道練成大会（協賛）  
平成19年6月9日（土）倉敷市水島緑地福田公園体育館
- 第26回山陽女子ロードレース大会（協賛）  
平成19年12月23日（日・祝）開催 岡山市内
- 第56回備前市えびす駅伝競走大会（協賛）  
平成20年2月11日（月・祝）開催 備前市内
- マルセン少年サッカー教室～湯郷Belleの選手を招いて～  
平成20年3月8日（土）岡山ドーム  
参加者 207名



### 2 文化

- 「第3回 沙美アートフェスト」（協賛）  
平成19年5月12日（土）開催（沙美海岸）  
展覧会（倉敷市立美術館）  
平成19年8月7日（火）～12日（日）
- くらしきウイーク2007 in Kansas City（協賛）  
平成19年7月25日（水）～8月1日（水）
- 岡山県文化連盟文化講演会（助成）  
第1回 平成19年9月9日「書道」  
第2回 平成19年9月15日「美術」  
第3回 平成19年9月23日「シンポジウム」
- 第19回全国生涯学習フェスティバル  
「まなびピア岡山2007」「生涯学習見本市」へ出展  
平成19年11月2日～6日 県総合グラウンド 桃太郎アリーナ



## 第4章 スポーツ・文化に関する広報、啓発事業

### 1 ホームページの管理



PCサイト <http://marusen-zaidan.or.jp/>  
携帯サイト <http://marusen-zaidan.or.jp/i/>

### 2 機関誌「マルセン」の発行

22年秋  
開催!!

# 第25回国民文化祭・おかやま2010

日本最大の  
文化の祭典が岡山に  
やってくる

ももっちが、  
国民文化祭でも  
活躍します



マスコット「ももっち」

## ●国民文化祭って？

国民文化祭は、国内外からたくさんの文化団体やアーティストが岡山の地に集い、全国各地域で行われている多種多様な文化活動を全国規模で発表し、競演し、交流する日本最大の文化の祭典です。

開会式・閉会式/民俗芸能/民謡民舞/邦楽/和太鼓/オーケストラ/合唱/吹奏楽/演劇/吟詠剣詩舞/文芸/美術/茶道/華道/囲碁/将棋/地域特色のある文化など、多彩なイベントが行われます。

## ●第25回国民文化祭・おかやま2010について

開催期間：平成22年(2010年) 10月30日(土)～11月7日(日) [9日間]

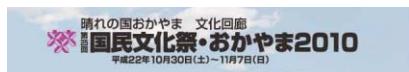
会 場：県内各地

主 催 者：文化庁、岡山県、岡山県教育委員会、開催市町村、文化団体等

## ●第25回国民文化祭・おかやま2010のテーマ

### 晴れの国おかやま 文化回廊

瀬戸内海から蒜山高原まで、爽やかな晴天が広がる岡山県を舞台として、地域と歴史を「めぐる」文化、人と人との「つなぐ」文化、ここから全国・世界へ、いまから未来へと「のびる」文化の回廊が、時空を超え、彩り豊かに行き交います。



## 第5章 ホットコーナー

### 女子長距離に若手のエース 中村友梨香（天満屋） 山陽女子ロードレースから北京五輪へ

世界への扉を開くニューヒロインは誰か。毎年そんな期待を抱かせてくれる。国内外の女性ランナーが師走の岡山路を舞台に幾多の名勝負を演じてきた山陽女子ロードレース大会だ。

岡山市出身で1928年アムステルダム五輪女子八百メートル銀の人見絹枝（07～31年）を顕彰するため、82年にスタート。四半世紀以上に及ぶ歴史を刻んだ大会は若手の登竜門として、数多くのトップランナーを輩出してきた。

女子マラソンで五輪2大会連続メダリストの有森裕子（岡山市出身）をはじめ、地元天満屋勢ではシドニー五輪7位の山口衛里やエドモントン、パリ世界選手権代表の松岡理恵、アテネ五輪7位の坂本直子。そして忘れてならないのがアテネ金の野口みずき（システムックス）だろう。ハーフマラソンで頂点に立った2000、03年大会。他を圧倒する走りは記憶に新しい。国内の女子ロードレースの草分け的な存在。その歩みは日本女子長距離界の躍進の歴史とも符合する。

2007年12月23日。前日の雨も上がり、冬の柔らかい日差しが岡山の街を包み込んだ。山陽女子ロードレースは人見絹枝の生誕100年という大きな節目を迎えた。注目のハーフはケニア出身のエバリン・キムエイがマーラ・ヤマウチ（英国）とのデッドヒートを制し優勝。そんな中で栄冠にこそ届かなかったが、日本選手で確固たる存在感を示したのは粘り強い走りで3位を射止めた天満屋の中村友梨香だ。

中村は兵庫県出身の21歳。県立西



全国都道府県対抗女子駅伝の1区で区間賞を奪った中村友梨香（中央）  
＝2008年1月13日、京都市

なかむら・ゆりか  
**中村友梨香**

兵庫県西宮市出身。県立西宮高から04年に天満屋入り。06年の全日本実業団ハーフマラソンでは1時間10分3秒の自己ベストで2位。同年秋の世界ロードランニング選手権は7位に食い込んだ。昨年12月には五千メートルで北京五輪参加標準記録Bを突破する15分21秒92をマークした。

宮高時代にはインターハイや全国高校駅伝で活躍した。高校の先輩でもある坂本直子にあこがれ、04年に天満屋に入社。166cm、48kgと体に恵まれ、上下動の少ない安定したフォームが特長だ。路面をなでるような柔らかな接地が見た目以上の推進力を生み出す。

06年には全日本実業団ハーフで2位、さらに世界ロードランニング選手権で7位。きまじめな性格そのままに練習に打ち込み、成長を遂げてきた。その名を全国にアピールしたのは山陽女子ロードのちょうど1週間前にあった全日本実業団女子駅伝。エース区間の3区（10km）で日本人歴代トップの31分30秒をマークした。今年1月の全国都道府県駅伝でも1区で区間賞を獲得、まさに今が旬のランナーだ。

シドニー金の高橋尚子（ファイテン）やベテランの弘山晴美（資生堂）、昨年の大阪世界選手権代表の原裕美子（京セラ）…。強豪がひしめき激戦が見込まれる北京五輪代表の最終選考会・名古屋国際女子マラソン（3月9日）に中村は参戦を決めた。自身にとって入社4年目で初めて挑んだ42.195km。岡山路をステップに世界へ駆け上がった先輩のように、天満屋の次代のエースが北京のスタートラインを射止めた。

（本文、写真ともに山陽新聞社提供）



山陽女子ロードレース大会で先頭争いを演じる中村友梨香（中央）＝2007年12月23日、岡山市

祝 中村友梨香選手、北京オリンピック出場決定!!

## ホットコーナー

### 堆錦の山口松太さん・沖縄の技法を繊細に独自に展開・ 備中漆の復興にも力

文字通り漆黒や金色の地は、赤や緑などの珠が織り成す光の帯をまとっている。静けさに満ち、神秘的。見る者を宇宙的な広がりへといざなう。1999年、第46回日本伝統工芸展で最高賞にあたる日本工芸会総裁賞に輝いた漆芸作品「古陵想」。作者は、山口松太さん(68)=岡山市高野尻。漆芸の岡山県重要無形文化財保持者である。

「古陵想」を生み出したのは、「堆錦」と呼ばれる沖縄の伝統技法を、繊細に昇華させた技術。漆に顔料を入れて練り固めた“餅”を延ばし、小さく丸く型抜きして器に張り並べる。今や「油蒼堆錦」として、他の追随を許さない独自の技法にするまでには長い漆との格闘があった。

幼いころの病気がもとで、足が不自由になり自立の道を目指して木彫を学んでいた山口さんだが、故・難波仁斎氏（岡山県重要無形文化財保持者）の作品を見て漆の素晴らしさを知った。

岡山市出身の難波氏は、独自の技法「描蒟醤」で知られ、総裁賞も受賞した漆芸家。蒟醤は、漆を塗り重ねた地に文様を線で彫り、色漆を塗り込んで研ぎ出す技法だが、描蒟醤は、筆を使って色漆で文様を描く。山口さんが見た難波作品は、金箔の月に四方から秋草がかかる図柄。伸びやかな線と仕上げの透明な漆が生む幻想的で奥行きのある世界に、「漆でこんなことができるのか！」と感動、66年に香川県漆芸研究所で学び、68年に難波氏に師事して漆の世界へ入った。



「漆は“かぶれる”のが魅力。漆のことを読んでやっているつもりが、読まれてたりする。今でも油断すると初歩的なミスをしますよ」と話す山口松太さん=岡山市高野尻の自宅

やまぐち・まつた  
**山口 松太**

1940年倉敷市生まれ。66年香川県漆芸研究所に研究生として入所、70年から7年間、同研究員。95年に岡山県重要無形文化財保持者、99年に日本伝統工芸展で日本工芸会総裁賞。紫綬褒章、岡山県文化賞など受章・賞多数。岡山市デジタルミュージアムが、漆器制作工程の記録映像を制作している。

流麗な線を持ち味にした師にはとてもかなわないと描蒟醤は諦めたが、1971年に東京都教育委員会賞を受賞し、注目される。同時に蒟醤の“本家”の香川の漆芸家らの「ひんしゅくを買った」という。作品は蒟醤風に印文で連續文様を施していたのだ。それで、蒟醤がいやになった山口さんは、彫漆や螺鈿などあらゆる技法に挑戦しながら自分だけのものを模索していたという。

そんな中、77年に香川県漆芸研究所研究員として沖縄に研修で訪れた時に知ったのが堆錦。「文様が大きく、民芸品の域を出てないが、逆に可能性を感じた」。だが、難問が。顔料を入れた漆が沖縄では乾くが、岡山では乾かなかったのだ。

漆の温度を変えるなど試行錯誤の結果、83年にやっと日本伝統工芸展に出品できたが、その後も成功したり、失敗したり。その間も、他の技法に取り組んでいた山口さんを高松市の漆芸家で蒟醤の人間国宝、磯井正美さんが「器用貧乏でどうする」と一喝。堆錦に的を絞ったのだが、救世主は、何と足元にあった。師の難波氏が使っていた、つややかな光沢や堅固さに優れた備中漆を使ったところ成功。90年に作品発表でき、無数の小さな珠や花びらの形で構成するデザインも編み出し、ついに総裁賞作品に結実する。

だが、備中漆は、68年完成の新成羽川ダムで産地は水没、漆かきも減り、気が付けば衰滅の危機。94年から始まった、林原共済会と岡山県郷土文化財団による新見、真庭市への漆の植栽事業に協力、ようやく今年から樹液の採取が行われる。山口さんは講習会で、備中漆を使ったことがない作家への技術普及に取り組む予定だ。岡山県郷土文化財団が進める、蒜山地方で戦後途絶えた郷原漆器復興事業にもかかわる。

堆錦に出会い30年。「漆を介した出会いが次々にあって、思わぬ方向へ進んできた」と振り返り、「備中漆や郷原漆器の伝統があって今の私がある」との思いも深める。

作品も最近ではササユリなど作品に絵が現れ始めた。「堆錦をあしらい、これまでスケッチしてきたものを元に蒔絵で絵画的にできないか」と想を練る。地域の漆文化のリーダーとして活躍から目が離せない。

(本文、写真ともに山陽新聞社提供)



備中漆の漆液

## 第6章 贈呈式

- とき 平成19年7月24日(火) 午前11時より
- ところ ホテルグランヴィア岡山 「クリスタルの間」

### ●式次第

- 1 開式
- 2 挨拶
- 3 表彰状及び副賞贈呈
- 4 受賞者謝辞
- 5 助成金交付式
- 6 来賓祝辞
- 7 閉式



## マルセン文化大賞



## 碎 崩

山口 松太

このたびは、名誉あるマルセン文化大賞を戴き光栄に存じ上げます。

わが国の誇り得る漆工芸は、西欧諸国ではジャパンと称され世界的な評価されており、これまで築いて来られた先人に敬いたく、私はこの道を歩んでおります。

岡山県は、漆器の産地ではありませんが、奈良時代から知られたうるしの産出地であり備中漆として優れた品質を認められてきました。

今日、油蒅堆錦として堆錦を本土で製作できるのは、先人の導きと備中漆があってのことです。

今年7月19日～10月21日までロンドン大英博物館主催「わざの美－伝統工芸の五十年展」には、平成11年日本伝統工芸展に出品し、日本工芸会総裁賞を戴いた乾漆油蒅堆錦箱【古陵想】(文化庁蔵)が展示されました。

この作品は、先人が培った創造の精神を頂いて製作できたものと思います。

伝統と技術を伝えるだけのものではありません。先人たちがそれぞれの時代に、どんな考えを持ち何を創造しようとしたか、その心を尋ねて正しく伝えていく大きな責務を担っております。

私には、まだまだすべきことが沢山残っており重圧を感じていました折、マルセン文化大賞を戴きましたことは、大変な励みとなりました。

有り難く、御礼を申し上げます。

工芸（漆芸）



## マルセンスポーツ賞

### 先輩指導者に教えていただいたこと

倉敷天城中学校 教諭 麻生 薫

この度は、このような賞をいただきありがとうございました。指導者の立場というのは、なかなか褒めてもらえないのが常ですので、表彰式に出席させていただいた時は純粋な嬉しさがこみあげてきました。また、広い世界を見てこられた他の指導者の方々や漆芸家の山口松太さんとお話をさせていただいたことがまた私自身の肥やしになりました。

昨年3月に行われた春の全国大会で、前任校の倉敷市立下津井中学校ハンドボール部が岡山県中学校初の全国優勝を成し遂げてから、夏の全国大会では、東京の東久留米西中学校と激戦の末、1点差で準優勝、12月に行われたJOCジュニアオリンピックカップでは岡山選抜として出場し、岡山県初優勝、その大会ではオリンピック有望選手・最優秀選手賞・優秀選手賞を下津井中学校の生徒が受賞するなど、大変な感動と苦労の多い1年でした。その経験は、漁師町ならではの下津井の地域団結力と下津井中学校教職員や保護者の支援と生徒の頑張りのおかげだと思います。本当に大切な存在の人たちです。

しかし、私には決して感謝の気持ちを忘れてはいけない人達がいます。それは、先輩指導者の方々です。今まで真剣に生徒に携わり、岡山県のハンドボールを盛り上げてきてくださった先輩指導者の方々です。私がここまで頑張れたのも先輩のおかげです。

何年もかけて県外につながりを持ち、岡山県の視野を広げてくれた方がおられます。どんなに弱いチームでも生徒に「あきらめない」気持ちを訴えてこられた方がおられます。心が弱い生徒に一生懸命「心」をおしえてこられた方がおられます。県外に行けば「素人」と笑われていた私を見守ってくれていた方がいます。試合での戦術や練習方法、指導者の姿勢を叩き込んでくれた方もおられます。対等な気持ちで相談に乗ってくれた方もおられますし、大きいのは下津井の生徒が全国へ行くとなれば、県内の指導者が下津井に足を運びみんなで指導してくださったこ

とでした。先輩方の生徒や岡山を思う姿勢から、温かい気持ちを教わったような気がします。ここには書けないくらい、たくさんの方からたくさんのこと教えてもらいました。

私は、下津井中学校の全国制覇は、「下津井中学校」の全国制覇ではなく、岡山の歴史の中で頑張ってこられた先輩のみなさんの「全国制覇」と思えて、とても感動しています。私は、そのような先輩方の温かく広い背中を見て、自分が育っていくことはとても幸せだと感じています。

今までいろんな場面で、生徒や地域の方のことを伝えていくことはできましたが、「下津井」や「ハンドボール」に関わってくださった、先輩の指導者などを伝えていくことはできませんでした。私は、先輩方が今まで必死で岡山県のために頑張ってきてくださったかをみんなに知りたいし、熱い熱い情熱をもって生徒にどれだけ関わっているか、そして自分のことだけでなく、後輩指導者をしっかり育てていってくださる広い心を、ぜひ知ってもらいたくて書きました。

このような賞をいただき、またこのような場を与えてくださり、マルセンスポーツ・文化振興財団の皆様には誠に感謝しています。これを機にもっともっと指導者としての力をつけていけるように勉強していきたいと思います。

ハンドボール競技



## マルセンスポーツ賞



### マルセンスポーツ賞受賞にあたって

岡山県作陽高等学校 サッカーチーム監督 野村 雅之

栄えあるマルセンスポーツ賞に選考していただきありがとうございます。

また、同時に大きな責任も感じており、今後さらなる努力をしていかなければならぬという思いを新たにしました。

平成19年の正月に行われた第85回全国高校サッカー選手権大会において作陽高校は決勝戦まで進出することができました。結果は準優勝ということで岡山県の高校サッカーチーム史上で最高の成績を出せたものの、残念ながら後一歩のところで勝ちきることはできませんでした。しかし決勝戦の翌日に岡山に帰ってきて、大変多くの人々が応援していくくださったことに改めて大きな驚きを覚え、地域に対するスポーツの影響力の大きさを実感しました。

大会期間中、私が選手達に強く言っていたことは、一人一人の置かれている状況は違うのだから少々のことで一喜一憂せずに落ち着いて事実をしっかりととらえなさいということでした。試合に出場している部員もいれば、スタンドで応援に徹している部員もいます。会場まで足を運んで応援してくれる人々がいれば、地元でテレビの前で応援してくれる多くの人々がいます。それら全部の人が作陽サッカーチームに関わり、作陽サッカーチームを育ててくれています。勝ち上がれば勝ち上がる程、自分を中心とした考え方をするのではなく、そのような周囲の人々への感謝の気持ちを持たなければいけません。夕食後のミーティングで、戦術的なことよりもこのようなことを中心にして話をしていました。そのためか選手たちは勝ち上がっていっても、かなり高いレベルで平常心を保っていたように思います。

高校時代は人生の通過点であり、サッカーはその人生の一部分でしかありません。サッカーは生徒を成長させる一つの手段と考えています。この大会の多くの地元の人々の応援により、部員たちは今まで以上に大きく育てていただいたことに感謝しています。この感謝の気持ちを更なる向上の糧としたいと思います。

サッカー競技



第86回 全国高等学校サッカー選手権大会 岡山大会 優勝

## マルセンスポーツ賞

### マルセンスポーツ賞受賞にあたって

岡山湯郷Belle代表 宮本 俊朗

この度、マルセンスポーツ賞の名誉を拝受し岡山湯郷Belleにとりまして大変な名誉であり光栄なことと感謝を申し上げるところでございます。

わが「岡山湯郷Belle」は、岡山県の北東に位置する美作市をホームとする女子サッカーチームでございます。

本年で創部7年目を迎える、現在日本女子サッカーのトップリーグ「なでしこリーグディビジョン1」にて活躍中でございます。

岡山湯郷Belleは、地元の市民をはじめ県内外の多くのサポーターをはじめ地域の民間企業・団体など多くの皆様にご支援をいただきながら運営する地元密着型のクラブチームでございます。

選手は、地元企業をはじめ湯郷温泉の旅館・ホテルなどに雇用していただき、日々働きながらわずかな練習時間と練習や生活環境には十分恵まれているとはいえませんが、そのような中、選手それぞれの夢とチームの大きな目標に向かい日々前進しているところでございます。

本年、正月元旦東京国立競技場で行われた「第28回全日本女子サッカー選手権大会」において準優勝という栄冠に輝くとともに、トップリーグ昇格後2年で4位につけるなど着実にその実力をつけつつあります。また同時に、岡山湯郷Belleの活躍は、テレビ・新聞等マスメディアにほぼ毎日のように紹介されるようになり、岡山、美作市湯郷温泉などその名を全国に発信され、岡山湯郷Belleの存在は、広報塔としてもその役割は大きく、同時に地域振興に大きく貢献しているところでございます。

この度の受賞に対し、関係各位に感謝申し上げますと共に、この受賞を誇りとし岡山湯郷Belleは地域と共に大きな目標に向かって前進したいと考えております。

最後に、マルセンスポーツ・文化振興財団のますますのご発展と関係各位の御健勝を御祈念申し上げ御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

サッカー競技



## マルセンスポーツ賞



### マルセンスポーツ賞受賞にあたって

井原・精研高等学校 男子新体操部 監督 長田 京大

この度、栄えあるマルセンスポーツ賞を拝受させていただき、今までにご協力・ご支援くださいました皆様と、選考にあたりました諸先生方、関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。また、この栄光をいつまでも心にとどめ、今以上に精進してまいる所存であります。

2005年岡山国体のため、新体操少年男子の強化を担い、平成11年4月に井原・精研高等学校に赴任しました。はじめは「同好会」という形で部員集めからスタートし、同時に、小中学生を対象とした、週に1回の「新体操教室」も活動を始めました（小中高のレールが確定すれば、将来安定したチーム力を保てるからです）。翌年には高校生も着実に力をつけ始め、ジュニアも週に3回と練習時間と日数を増やし、ジュニア専門の指導者も来岡し、小中高の一貫した練習体制が安定してできるようになりました。そして、平成17年度インターハイ団体優勝を契機に、岡山国体優勝、平成18年度インターハイにおいては、団体・個人・種目別と完全優勝させていただき、今年度は団体・個人ともに準優勝と、毎年好成績を出すことができるチームにまで成長いたしました。

まだまだ歴史が浅く、指導者も未熟であるこの部が、この短期間にこれほどの快挙が成せましたのも、すばらしい学校で、良き生徒に出会い、その生徒を支えていただくすばらしい保護者に応援をいただき、学校全体で一丸となってサポートをしていただき、後援会をはじめ、井原市や岡山県の関係各位の皆様にご協力・ご支援いただいたからこそであると、心より感謝致しますとともに、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、マルセンスポーツ・文化振興財団の益々のご発展を心より祈念申し上げます。本当にありがとうございました。

新体操競技



## マルセンスポーツ賞



### 受賞にあたり「夢・目標・叶うまで」

笠岡工業高等学校 教諭 牧野 吉伸

4m四方の小さなリング上でバーベルを持ち上げ、その重さを競う競技…ウエイトリフティング。決して野球のような人気もなければ、バレーボールのような華やかさもない。しかし私の中では日本一・世界一の競技で、私はこのウエイトリフティングが大好きです。

この度、「マルセンスポーツ賞」をいただき、マイナーなウエイトリフティング競技が、広く世間に認められメジャーな競技に近づいたかな?と、大変嬉しく感謝いたしております。

バーベルとの出会いは、高校一年の春。何気なく誘われて始めましたが、当時の体重わずかに43キロ。とても鉄のバーベルは似合いませんでした。一枚の賞状が欲しいと小さな目標を持ち日々の練習に打ち込みました。いつの日か一枚の賞状が、一位の賞状に、日本一の賞状に、世界大会に…。そして大学を卒業した頃に「オリンピック」の文字が見えてきましたが、ロサンゼルス・ソウルオリンピック共に国内最終選考で負け、この夢は叶いませんでした。

今は指導者として強くなれなくてもいい、最後にウエイトリフティング楽しかったなと言ってもらいたいと、頑張っています。

倉敷商業高校では、高校日本一が15人誕生しました。昨年は、「全国高校女子選手権」で総合優勝も出来ました。日本高校新記録を樹立した生徒も3人います。1つ1つ私の目標を叶えてくれる選手たちに感謝しています。残された目標は後3つ!!

- 1) 自分の教え子からオリンピック選手を出す。
  - 2) 男子インターハイで総合優勝をする。
  - 3) 自分自身は、「世界マスターズ選手権」で世界新記録を樹立する。
- 教員生活も残り10年少々。これからも、ウエイトリフティング競技中心の生活が…。

『可能性を求めて、我今力尽きるまで!!!!』

ウエイトリフティング競技

## マルセン文化賞

### 新天体発見の夢

多胡 昭彦

私にとっては何かと節目の年となったこの年に、名譽あるマルセン文化賞を受けることになったことを、大変うれしく、また有り難く思っております。

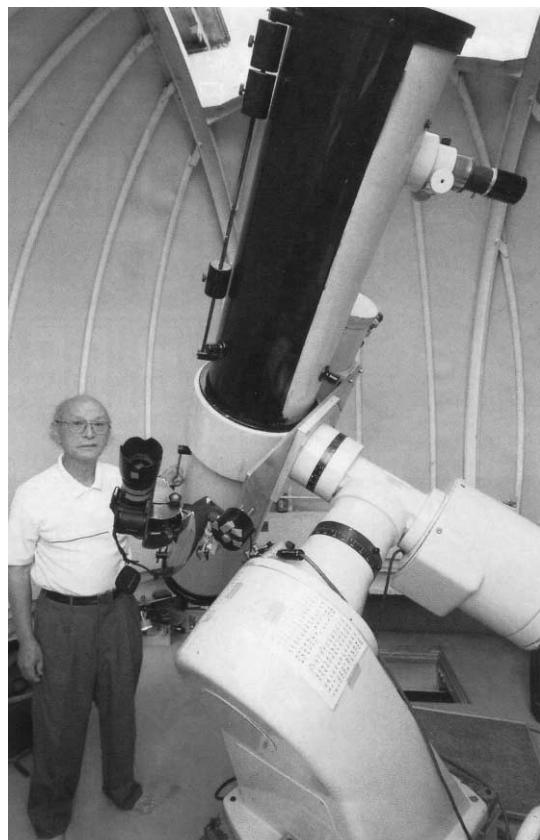
それと言うのも、この賞を受ける対象となった「新天体発見」への夢を抱いたのは、今から60年前のことでした。そしてちょうど40年前に、初めて新彗星発見という夢が実現したのです。さらに今年は金婚式を迎える年にも当たっており、私にとっては何かと大きな区切りの年にもなっていただからです。

さて、「新天体発見」への夢を抱いた60年前といえば昭和22年。まさに終戦直後のことで、国内の至るところは焼け跡だらけの状態で、日本中のだれもが、その日をいかにして食べていくか、こんなことしか関心がなく、夢も希望も全くなかった時代でした。当時、中学生であった私は、ふと見た新聞記事によって、胸がわくわくするような大変な驚きと感動を覚えることがありました。その記事というものは「新彗星発見、本田彗星と名が付く」という、わが岡山県倉敷市の本田 実さんが、新彗星を発見したニュースの記事でした。

こんな時代に新しい星を求めている人がいるなんて、何というすごいことをする人なんだろう。しかも広大な夜空に自分の名前がついた星が輝いているなんて、何という素晴らしい夢なんだろう。さらに自分が見つけたその星を見つめるときの心境とは、一体どんなものなんだろう。あれこれと子供心に思いを巡らせるうちに、自分のことのように大変な感動を覚えました。このときの感動があまりにも強烈であったため、次第に自分自身の目で実際に新天体を発見し、その心境を体験してみたいという夢が沸いてきたのです。

そしてその夢が実現した最初の新彗星が、私に夢と目的を与えてくれた故本田 実先生とともに連名となる「多胡・本田・山本彗星」という思い出の彗星が誕生したのです。この彗星発見から得た教訓は、人生の生きがいというものは、夢・目的達成によって得られるものではなく、それに向かって努力をしているときにこそ得られるものだということを学びました。このため子供のころに描いた夢を、70数歳になつた今日にも、生きがいにつながる夢を追い続け、努力しているのです。

天文学



## マルセン文化賞



### 受賞にあたって、また今後の抱負など

田丸 稔

まずはこの受賞にあたり財団の方々をはじめ、推薦・審査にあたられた諸先生方に心より御礼申し上げます。

受賞の連絡をいただいた当時、私はといえば自宅兼アトリエを新築、引越しをした直後であり、また今年の展覧会に出品する作品の製作も山場にさしかかっていたり、勤め先での諸々の仕事が山積みになっていたり等々…、重なる諸事に振り回され、逃げ出したいような気持ちで過ごしていたさなかでしたので、お電話での「マルセン文化賞の受賞」という報せが一瞬何のことかわからず、今考えるとずいぶんぶっきらぼうでのはずれな対応をしてしまったことを今更のように後悔しております。この場を借りてお詫び申し上げます。教えて頂いたWEBページを開いて、この財団と活動のことを拝見し、ようやくこのことが大変な栄誉であり、自分にとって思いがけない幸運であるとわかってきて、感謝の気持ちを新たにしたというようなお恥ずかしい次第でした。

さて、しかし、このような私の彫刻の仕事に、そのように身に余る評価をいただいたわけですから、今後はより一層の自信と責任を持って私の彫刻を追及し、内容を深めるべく時間をかけて努力を積み重ねたいと思っています。

幸いにして私の仕事は、塑像による具象彫刻というファインアートの世界でありながら、いわゆる「才能」以上に、「人間を深く知る」という経験的要素が深くものを言う表現世界です。ありふれた日常を積み重ね蓄積された人間観を、粘土ひとつまみ、あるいは一握りごとに盛りつけ、そしてひねりあげ、ひとつの「美」を備えたかたちに練り上げてゆくわけです。

いずれの日か、私の人間観がひとつスタンダードを得たとき、この仕事の成果として皆様にご報告する日がくることを祈念しつつ、今後の抱負とさせていただきたいと思います。



美術（彫刻）

## マルセン文化賞



### マルセン文化賞受賞にあたって

陶芸家 宮尾 昌宏

このたびは、マルセン文化賞をいただき、大変光栄に思っております。物を作るというのはとても孤独な作業ですが、このような賞をいただき、評価していただくと、前向きな気持ちになり、自信にもなります。多大なエネルギーをありがとうございました。

昨年、日本伝統工芸展で日本工芸会会長賞を受賞しました。それまで私は、日々の作陶の中で、何か人と違うものを作らなくてはいけないと思っていた。しかし変化を追い、結果的にできたものは、伝統を踏襲した備前焼でした。古来より綿々と受け継がれてきた変わらない備前焼の本質の中で、それを踏まえていたからこそできたものだということに、感慨深いものがありました。

伝統を受け継いで下さった方々と、貴財団のようにそれを支えて下さっている方々に、とても感謝しています。これからの方がまだまだ長い私の作家生活に於いて、このようにして続けてきた文化の一端を担えることを大変誇りに思うと同時に、責任も感じています。自分に何ができるのかを模索中ですが、伝統と独自性を大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、受賞に際し推薦いただいた方や、財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団法人の皆様に厚く御礼申し上げます。

美術（陶芸）



DATA

---

資 料

# 事業の記録

## 1 表彰の記録

### 第3回 贈呈式（ホテルグランヴィア岡山）

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
18.7.21	ス ポ ツ	大 賞	高橋 大輔	スケート競技フィギュア
		賞	榎村 正明 古川 興幸 森政 芳寿	ソフトテニス競技 監督 レスリング競技 監督 陸上競技 監督
		大 賞	あさのあつこ	文芸 児童文学
	文 化	賞	川島 基 難波 滋 福石神楽団	ピアニスト 美術 洋画 無形文化財 伝統芸能
		特 别 賞		剣道競技 山岳競技 バレーボール ボート競技
			岡山剣道連盟 岡山山岳連盟 岡山シーガルズ 関西高等学校ボート部	

### 第2回 贈呈式（ホテルグランヴィア岡山）

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
17.8.3	ス ポ ツ	大 賞	水鳥 寿思	体操競技
		賞	石本 直樹 諸見里しのぶ 横山 純子	ベンチプレス競技 ゴルフ競技 陸上競技 監督
		大 賞	小川 洋子	文芸 小説
	文 化	賞	石田 宗之 はやし田植え保存会 濱坂 渉	美術 洋画 無形文化財 伝統芸能 美術 彫刻

### 第1回 贈呈式（ホテルグランヴィア岡山）

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
16.12.14	ス ポ ーツ	大 賞	武富 豊	陸上競技 監督
		賞	土井美智江 藤原 佳市 柳井 清志	水泳競技（マスターズ） 体操競技 監督 ソフトボール競技 監督
		賞	高橋 秀	現代美術
	文 化	賞	栗井春日歌舞伎保存会 岡山フィルハーモニック管絃楽団 松本 和将	無形文化財 伝統芸能 音楽 ピアニスト

## 2 助成の記録

### 第3回交付式（ホテルグランヴィア岡山）

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額
18. 7.21	ス ポ ーツ	100万円	36件	10件	970,000円
	文 化	100万円	27件	10件	992,000円
				合 計 20件	1,962,000円
				累 計 61件	7,803,640円

### 第2回交付式（ホテルグランヴィア岡山）

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額
17. 8. 3	ス ポ ーツ	100万円	34件	10件	988,640円
	文 化	100万円	24件	10件	1,000,000円
		晴れの国おかやま国体		100万円	
				合 計 21件	2,988,640円
				累 計 41件	5,841,640円

### 第1回交付式（ホテルグランヴィア岡山）

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額
16.12.14	ス ポ ーツ	100万円	31件	10件	1,000,000円
	文 化	100万円	15件	9件	853,000円
		晴れの国おかやま国体		100万円	
				合 計 20件	2,853,000円

### 3 イベントの記録（協賛を含む）

年度	区分	イベント名	実施日	応募数	決定数	金額
18	スポーツ	「第25回山陽女子ロードレース大会」協賛	18.12.23	—	—	105万円
		「第55回備前市えびす駅伝競走大会」協賛	19. 2.11	—	—	10万円
	文化	「ポスト国体・フワーロード事業」協賛		—	—	10万円
		「第2回沙美アートフェスト」協賛	18. 5.13	—	—	10万円
		川島 基ピアノリサイタル	18.11. 3	431通	200名	約40万円
		コミュニティライブラリーの開設	18. 8. 4 19. 2.16	—	—	—
17	スポーツ	岡山桃太郎アリーナ落成記念 「オリンピックメダリスト体操競技演技会」	17. 6. 5	—	—	21万円
		「第24回山陽女子ロードレース大会」協賛	17.12.23	—	—	105万円
		「第54回備前市えびす駅伝競走大会」協賛	18. 2.11	—	—	10万円
	文化	松本和将「ベートーヴェン3大協奏曲のタベ」(岡山シンフォニー)	17. 4.30		100名	30万円
		岡山デジタルミュージアム開館記念『新シルクロード展』	17.10.21 ～ 12.18	452件	100名	9万円
		あそべる!おもちゃ展 (岡山デジタルミュージアム)	18. 2.17 ～ 2.22	—	—	10万円
16	スポーツ	「第23回山陽女子ロードレース大会」協賛	16.12.23	—	—	105万円
	文化	岡山フィルハーモニック管弦楽団 第26回定期演奏会	17. 3.11	710件	100名	36万円

### 4 コミュニティライブラリーの開設

#### ●晴れの国 おかやま国体「あの感動をもう一度！」

- 競技写真展・表彰者紹介コーナー・映像コーナー  
(写真の提供 岡山県・山陽新聞社)

#### ・期間

第1期 平成18年8月4日～31日  
(競技写真展・表彰者紹介コーナー)

第2期 平成18年9月1日～10月31日  
(水鳥寿思選手・高橋大輔の試合着・コスチューム)

第3期 平成18年11月8日～平成19年2月16日  
(映像コーナーの設置)

## 平成18年度収支決算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

### 1 収入の部

(単位：円)

科 目	予算額	決算額
基本財産運用収入	100,000	60,000
寄付金収入	500,000	2,467,515
雑 収 入	0	4,441
繰 越 金	15,359,399	15,359,399
収 入 合 計	15,959,399	17,891,355

### 2 支出の部

科 目	予算額	決算額
事 業 費	13,300,000	12,935,761
管 理 費	2,400,000	1,025,138
特 定 預 金 支 出	0	0
予 備 費	259,399	0
支 出 合 計	15,959,399	13,960,899

3 次年度繰越金 3,930,456円

## 貸借対照表

(平成19年 3月31日 現在)

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		4,740,260
流動資産合計		
2 固定資産		
基本財産合計	100,000,000	
その他固定資産合計	20,000,000	
固定資産合計		120,000,000
資産合計		
II 負債の部		
1 流動負債		809,804
流動負債合計		
2 固定負債		
固定負債合計		
負債合計		809,804
III 正味財産の部		
正味財産		123,930,456
(うち基本財産)		(100,000,000)
(うち当期正味財産増加額)		(△ 11,428,943)
負債及び正味財産合計		124,740,260



平成19年度 マルセン4号

発行日／平成20年3月

発行所／財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団

所在地／〒700-0031 岡山県岡山市富町2丁目4番4号

電話／(086) 214-3585 ファックス／(086) 214-3583

URL <http://www.marusen-zaidan.or.jp/>

(本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています)